

様式第3

会 議 録

会 議 名	令和元年度 自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第1回（専門部会）相談支援部会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の 別	議題 基幹相談支援センターについて
日 時	令和元年7月23日（火） 午前10時30分から正午まで
場 所	市役所高層棟8階 大会議室
出 席 委 員	部会長 堀口 美千代 副会長 上野 友和 委 員 亀井 宏純 委 員 柄澤 隆一 委 員 古藤 栄一 委 員 坂 美雪 委 員 高峰 啓三 委 員 中島 伸幸 委 員 中村 成彦 委 員 橋本 竜也 委 員 鈴木 良造 委 員 久保 祐介 委 員 吉田 利恵
欠 席 委 員	委 員 五十嵐 孝子 委 員 市岡 武 委 員 塚本 博義 委 員 中野 徹也 委 員 池田 亜由美 委 員 志賀 絵里香
事 務 局	齋藤 剛（障がい者支援課相談支援係長） 宇佐見 千紘（障がい者支援課相談支援係主任主事） 上野 慎司（障がい者支援課相談支援係主任主事） 森本 晃司（障がい者支援課計画係主任主事）
傍 聴 者	無し
議 事	令和元年度自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会第1回 専門部会（相談支援部会）の会議結果（概要）は、次のとおり である。
	1 開会 令和元年7月23日午前10時30分、開会した。会議録作成 のため録音機を使用することの了解を得た。五十嵐委員、市岡 委員、塚本委員、中野委員、池田委員、志賀委員が欠席するこ とを報告

相談支援係長	7月10日に開催された協議会本会から推薦を受けて社会福祉法人円融会の高峰啓三委員が相談支援部会の委員に就任 また、相談支援事業所ウイズの相談支援専門員変更に伴い、塚本博義委員の就任を報告
堀口部会長	今回、変更となった各委員から自己紹介をお願いしたい。
各委員	<自己紹介> 2 議題 議題1 基幹相談支援センターについて
宇佐見主任主事	基幹相談支援センターの立上げに向けて情報共有を図りたい。厚生労働省の資料によると、基幹相談支援センターは、地域の相談支援の拠点として総合的な相談業務及び成年後見制度利用支援事業を地域の実情に応じて行うとされている。相談支援部会で、日頃実務に従事する委員から基幹相談支援センターに関する意見を募りたい。
堀口部会長	厚生労働省が基幹相談支援センターの役割のイメージを示しているが、私も含め各委員の基幹相談支援センターに対するイメージはまだ漠然としていると感じる。近隣の柏市では基幹相談支援センターが地域で上手く機能しているが、福祉の在り方は地域ごとに異なる。野田市においても地域資源の活用や勉強会などで意見交換を行い、基幹相談支援センターをより良いものとしていきたい。
上野副部会長	基幹相談支援センターと既存の相談支援事業所がどのように連携を取っていくのかが今後の課題だと考える。
堀口部会長	基幹相談支援センターのイメージとして困難事例を受け持つケースが多くなると思うが、意見はあるか。
高峰委員	基幹相談支援センターの先進事例を資料として拝見しているが、地域に根差した形で機能している。当法人は兵庫県を拠点に活動をしてきたため、野田市において各事業所との横のつながりや連絡体制をどのように構築していくかが課題である。基幹相談支援センターが困難ケースを抱え込むのではなく、他の事業所に知恵を拝借しながら地域の方の意見を反映していきたい。

柄澤委員	基幹相談支援センターと地域生活支援拠点で役割が重複しているように思える部分がある。相談支援事業所ではない事業所からするとその住み分けが気になる。
堀口部会長	相談支援部会の中で具体的な事例を取りあげ、基幹相談支援センターの方向性を検討することは可能か。
相談支援係長	事例検討することは可能。事例検討により基幹相談支援センターの役割を共有し、今後の実務に反映していきたい。
堀口部会長	実際に現場で働く相談支援専門員から意見はあるか。
中村委員	イメージがしにくいですが、基幹相談支援センターが困難事例を扱う方が良いと考える。
堀口部会長	個人的な意見としては、中核地域生活支援センターのだネットのような役割を期待している。
相談支援係長	基幹相談支援センターは、総合的かつ専門的な相談対応が求められる。現状として中核地域生活支援センターのだネットがその役割を担っている部分が大きく、モデルケースとして参考になると考える。
堀口部会長	相談支援専門員はサービス等利用計画の作成だけでなく、一般相談として包括的な支援が求められることが現状としてある。中核地域生活支援センターには障害福祉サービス制度の狭間でグレーゾーンな部分を支援していただいている。
上野副部会長	基幹相談支援センターの基盤が熟成するまでは、市も協力して連携や対応をしてもらえると有り難い。
相談支援係長	現状、市では困難事例の緊急対応を実施しているが、基幹相談支援センターが稼働したら、役割を一任するのではなく、協力して連携を図っていく。
堀口部会長	短期入所などの緊急対応といったところで、地域生活支援拠点が関わってくるが、現時点で青写真はあるか。
森本主任主事	野田市では地域生活支援拠点を面的整備で進めている。相談部分については、基幹相談支援センターが中心となる。また、体験利用の場としてグループホームの建設。グループホームと短期入所を併設して緊急時の受入れを行っていく。

堀口部会長	医療的ケアの対応は可能か。
高峰委員	医療的ケアは非常に難しい部分だと感じる。 明言はできないが、対応は検討したい。
堀口部会長	様々な課題が挙げられた中で、拠点の準備会や相談支援の勉強会などで話し合いをしていきたい。
柄澤委員	緊急対応のケースが年間に何件あるかなど客観的なデータがあれば、円融会としても実際に何が必要となるのかが明確になると思う。
堀口部会長	課題を抽出していく中で、データで統計を取ることは非常に重要である。
相談支援係長	<p>3 閉会</p> <p>今後の開催予定について説明を行う。その他は特に意見がなかったため、正午、閉会を宣言した。</p>